



ONOKEN 

2021年3月期 決算説明資料 小野建株式会社

- 1** 2021年3月期連結決算の総括、連結損益計算書、新会計基準適用について
- 2** 販売管理費、連結貸借対照表、セグメント別業績
- 3** 品種別販売状況
- 4** 設備投資
- 5** 株主還元、今期業績予想について

将来の見通しに関する注意事項

資料に記載されている内容につきましては、種々の前提に基づいたものであり、将来の計画数値、施策などに関する記載については、不確定な要素を含んだものであることをご理解ください。

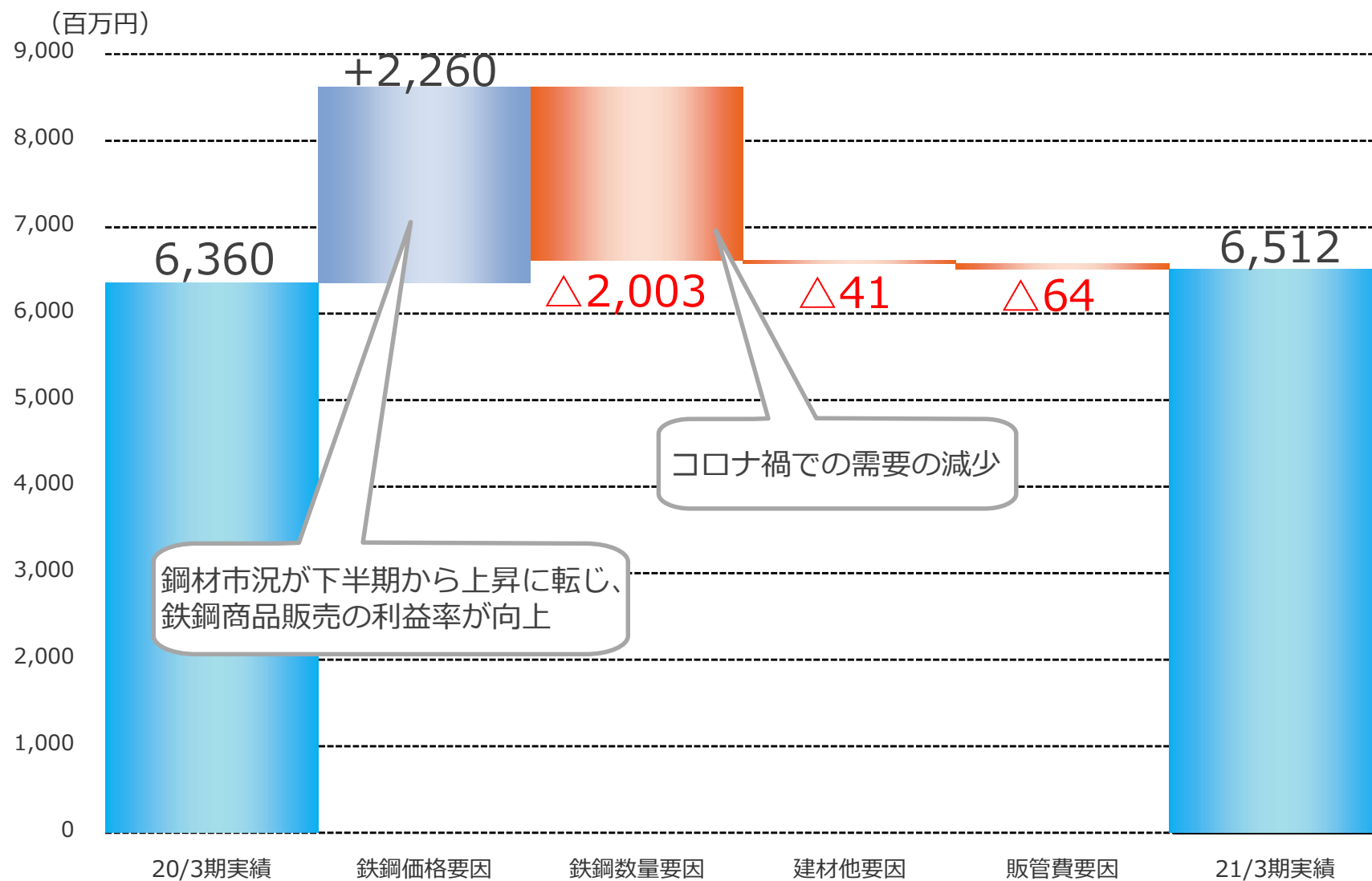
2021年3月期総括 前々期および前期との差異（連結）



	19/3期 実績	20/3期 実績	21/3期 実績	(百万円) 前年同期比	
				増減	増減率
売上高	232,164	229,290	202,825	△ 26,465	△ 11.5 %
売上総利益	20,209	19,688	19,904	+ 216	+ 1.1 %
営業利益	6,632	6,360	6,512	+ 152	+ 2.4 %
経常利益	6,680	6,527	6,717	+ 190	+ 2.9 %
親会社株主帰属 当期純利益	4,664	4,416	4,508	+ 92	+ 2.1 %

売上は2期連続減収
利益は3期ぶりの増益

2021年3月期総括 営業利益/前年同期比変化要因（連結）



損益計算書（連結）

	19/3期 実績	20/3期 実績	21/3期 実績	前年同期比 増減率	(百万円)	
					22/3期 通期計画	前期比 増減率
売上高	232,164	229,290	202,825	△ 11.5 %	207,472	+ 2.3 %
売上原価	211,955	209,601	182,920	△ 12.7 %	187,306	+ 2.4 %
売上総利益	20,209	19,688	19,904	+ 1.1 %	20,166	+ 1.3 %
販売費及び一般管理費	13,576	13,328	13,392	+ 0.5 %	14,275	+ 6.6 %
営業利益	6,632	6,360	6,512	+ 2.4 %	5,891	△ 9.5 %
営業外収益	286	341	290	△ 15.0 %	235	△ 19.0 %
営業外費用	238	174	85	△ 51.1 %	30	△ 64.7 %
経常利益	6,680	6,527	6,717	+ 2.9 %	6,096	△ 9.3 %
特別利益	428	14	57	+ 307.1%	0	—
特別損失	3	117	27	△ 76.9 %	12	△ 55.6 %
税引前当期純利益	7,105	6,424	6,746	+ 5.0 %	6,096	△ 9.6 %
法人税等事業税	2,441	2,008	2,208	+ 10.0 %	1,891	△ 14.4 %
親会社株主当期純利益	4,664	4,416	4,508	+ 2.1 %	4,125	△ 8.5 %

※22/3期通期計画から新会計基準を適用の為、前期比増減率は参考値

◆21/3期 売上高減少の主な要因

- ・コロナ禍で需要が落ち込み販売数量が減少
- ・前年同期比で販売単価の下落

◆21/3期 営業利益増加の主な要因

- ・年度後半からのメーカー主導での鉄鋼商品市況の上昇により、在庫出荷分を中心とした利益率の上昇によるもの

※市況上昇の要因

国内需要は低調に推移しているが、中国をはじめ海外経済の回復傾向に伴い
国外需要は増加し、鉄鉱石、スクラップなどの原材料価格が急騰したため

◆22/3期 減益計画の主な要因

- ・在庫単価の上昇による利益率の低下
- ・工事請負事業における中・小型案件の減少と、需要減少に伴う競争激化による利益率の低下

新会計基準適用による主な業績変動について

22/3期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用する為
前期と比較し、売上等に変動が生じます

- ・ 工事請負事業（主に鉄骨工事）における使用鋼材の売上消却
条鋼類等の売上高、販売数量、利益の前期比減少要因

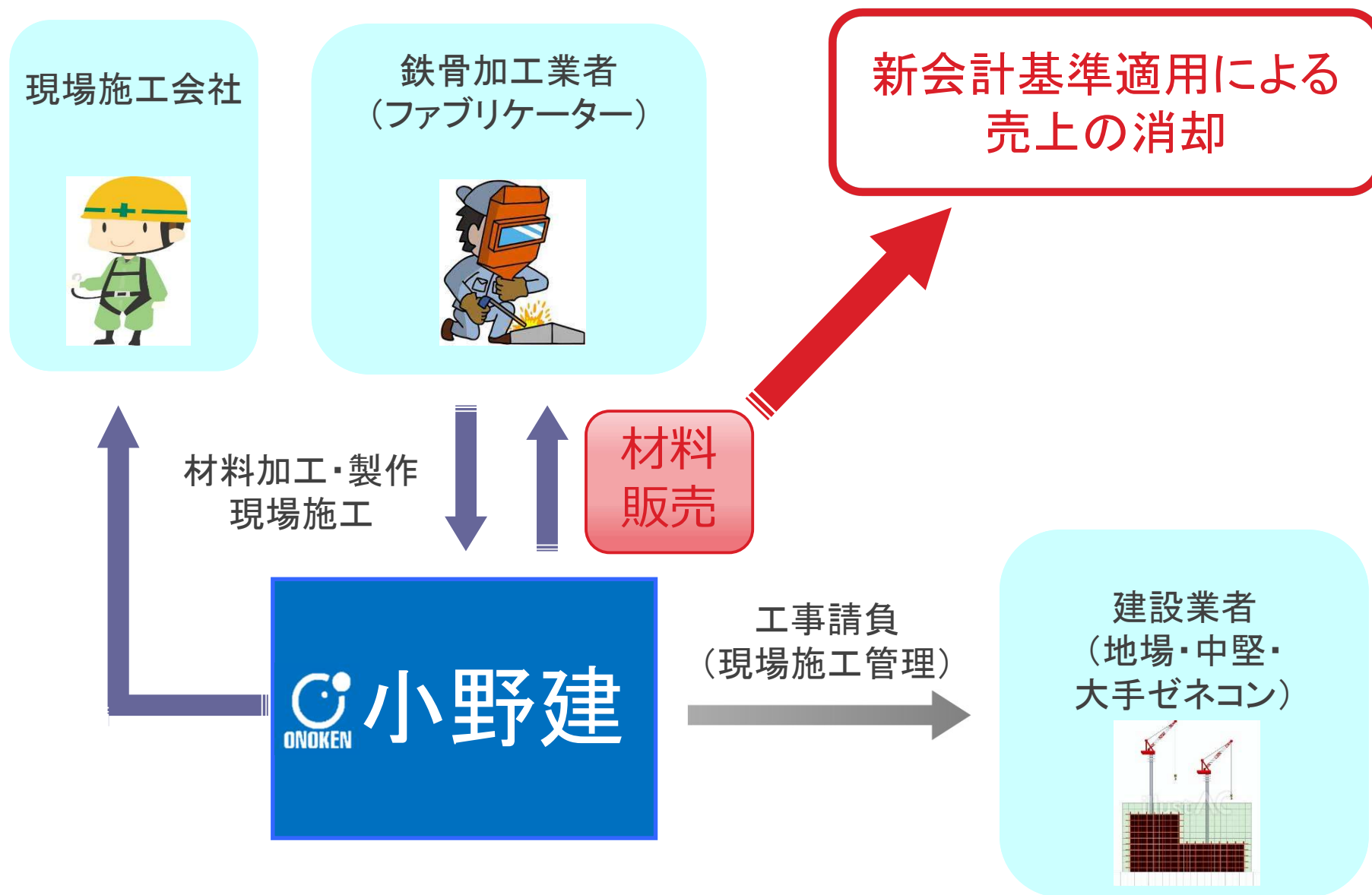
影響額

売上高	約80億円
販売数量	約8万トン

- ・ 工事請負事業における完成工事基準から工事進行基準に変更
前期未成工事のうち前期出来高分については売上は非計上となり
進行基準による今期出来高分のみ売上・利益を計上
- ・ 上記工事請負にかかる条鋼類等の使用鋼材利益分は工事請負事業の利益に含めて計上

条鋼類利益	工事請負事業利益
約△5億円	→ 約+5億円

※今期計画におきましては、新会計基準適用を考慮しております



販売管理費（連結）

	19/3期 実績	20/3期 実績	21/3期 実績	前年同期比 増減率	(百万円)	
					22/3期 通期計画	前期比 増減率
販売費及び一般管理費	13,576	13,328	13,392	+ 0.5 %	14,375	+ 7.3 %
運賃	4,318	4,401	3,973	△ 9.7 %	4,307	+ 8.4 %
貸倒引当金繰入額	753	16	4	△ 75.0 %	—	—
人件費	4,432	4,671	4,793	+ 2.6 %	5,009	+ 4.5 %
租税公課	466	485	507	+ 4.5 %	615	+ 21.3 %
減価償却費	1,299	1,354	1,695	+25.2 %	2,076	+ 22.5 %
その他	2,311	2,401	2,420	+ 0.8 %	2,368	△ 2.1 %
売上原価内の減価償却	529	477	438	△ 8.2 %	392	△ 10.5%

21/3期

- ・ 販売数量の減少に伴う運賃の減少
- ・ 前期発生した貸倒引当金繰入額の戻入
- ・ 加工設備増強、南福岡営業所新設および三重営業所拡大移転による減価償却費の増加

22/3期

- ・ 鉄鋼商品の在庫出荷比率の増加に伴い、運賃は増加
- ・ 加工設備増強、北陸営業所拡大移転および小倉支店増設による減価償却費の増加

貸借対照表（連結）

※主要項目のみ記載しております	19/3期 実績	20/3期 実績	21/3期 実績	増減額	増減率(百万円)
流動資産	108,673	100,013	86,319	△ 13,694	△ 13.7 %
現金及び預金	5,725	5,292	5,132	△ 160	△ 3.0 %
受取手形及び売掛金・電子記録債権	72,424	62,791	53,958	△ 8,833	△ 14.1 %
商品及び製品、原材料及び貯蔵品	24,722	21,411	19,384	△ 2,027	△ 9.5 %
前渡金	5,769	10,382	7,472	△ 2,910	△ 28.0 %
固定資産	49,944	53,584	57,773	+ 4,189	+ 7.8 %
有形固定資産	47,908	50,911	55,024	+ 4,113	+ 8.1 %
資産合計	158,618	153,598	144,092	△ 9,506	△ 6.2 %
流動負債	88,051	75,628	62,305	△ 13,323	△ 17.6 %
支払手形及び買掛金・電子記録債務	45,411	41,766	37,288	△ 4,478	△ 10.7 %
短期借入金	35,951	22,250	14,150	△ 8,100	△ 36.4 %
前受金	2,834	6,170	5,185	△ 985	△ 16.0 %
固定負債	2,034	7,809	7,839	+ 30	+ 0.4 %
社債	—	6,029	6,023	△ 6	△ 0.1 %
長期借入金	287	34	—	—	—
負債合計	90,086	83,437	70,145	△ 13,292	△ 15.9 %
株主資本	68,191	70,077	73,453	+ 3,376	+ 4.8 %
純資産合計	68,531	70,160	73,947	+ 3,787	+ 5.4 %
負債・純資産合計	158,618	153,598	144,092	△ 9,506	△ 6.2 %

◆売上債権、買掛債務の減少

- ・売上の減少によるもの

◆商品および製品の減少

- ・在庫単価の低下と需要見合いの数量減によるもの
今後は在庫単価の上昇と在庫数量の増加により増加傾向となる見込み

◆有形固定資産の増加

- ・南福岡営業所の新設および三重営業所・北陸営業所の拡大移転によるもの

◆前渡金・前受金の減少

- ・未成工事の減少によるもの

◆短期借入金の減少

- ・仕入債務および在庫商品の減少によるもの

セグメント別業績推移(連結)

(百万円)

		19/3期 実績	20/3期 実績	21/3期 実績	※22/3期 通期計画
九州・中国 エリア	売上	128,337	137,075	122,484	121,388
	営業利益	4,405	4,392	4,287	3,811
関西・中京 エリア	売上	58,250	51,289	42,113	51,198
	営業利益	1,339	1,077	1,111	1,023
関東・東北 エリア	売上	45,576	40,924	38,227	40,854
	営業利益	909	818	1,079	1,180

売上高は「外部顧客への売上高」を記載

※通期計画は連結消去なしで記載の為参考値

品種別販売状況（小野建単体）

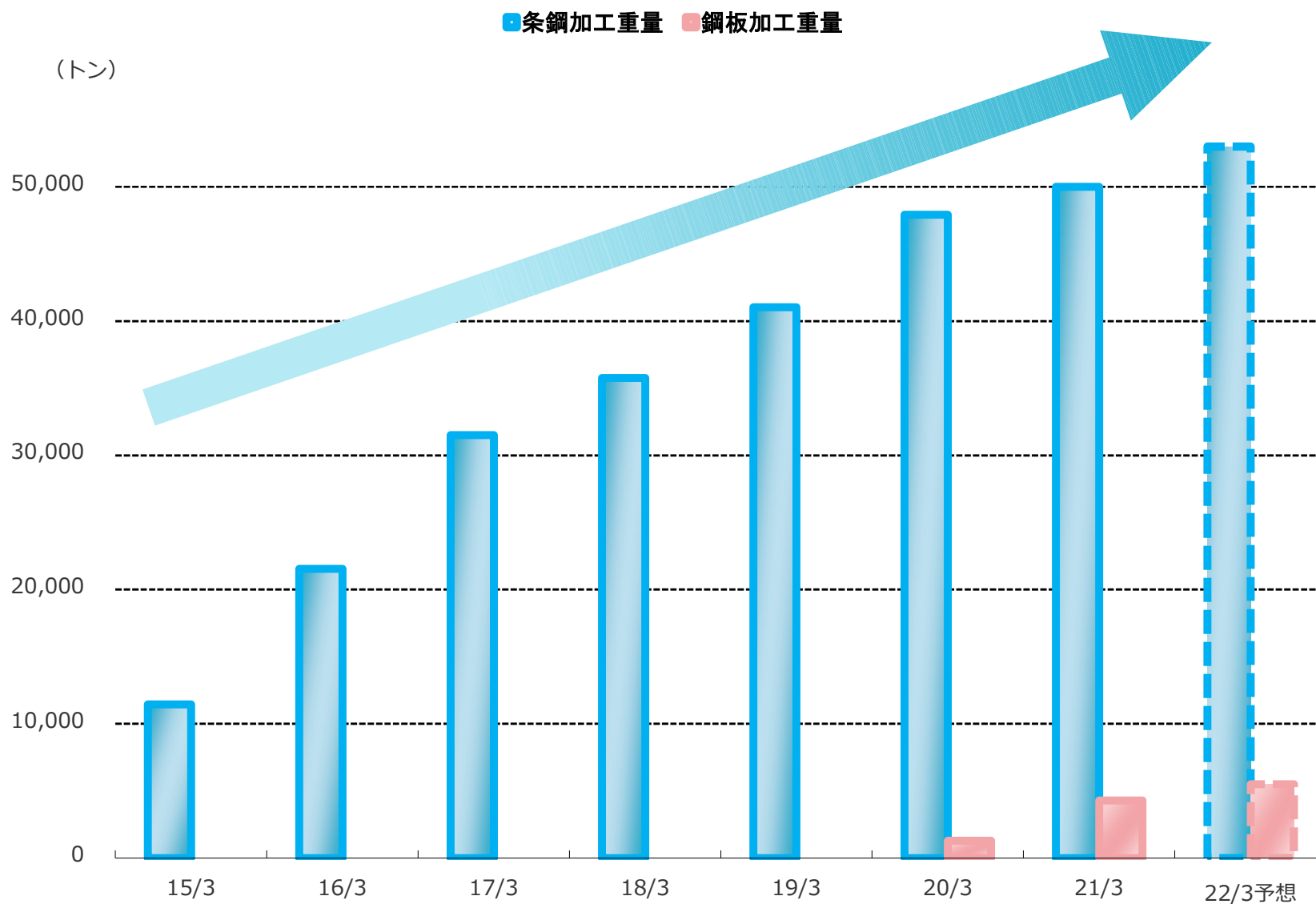


（百万円・千トン・％ 単価は円/Kg）

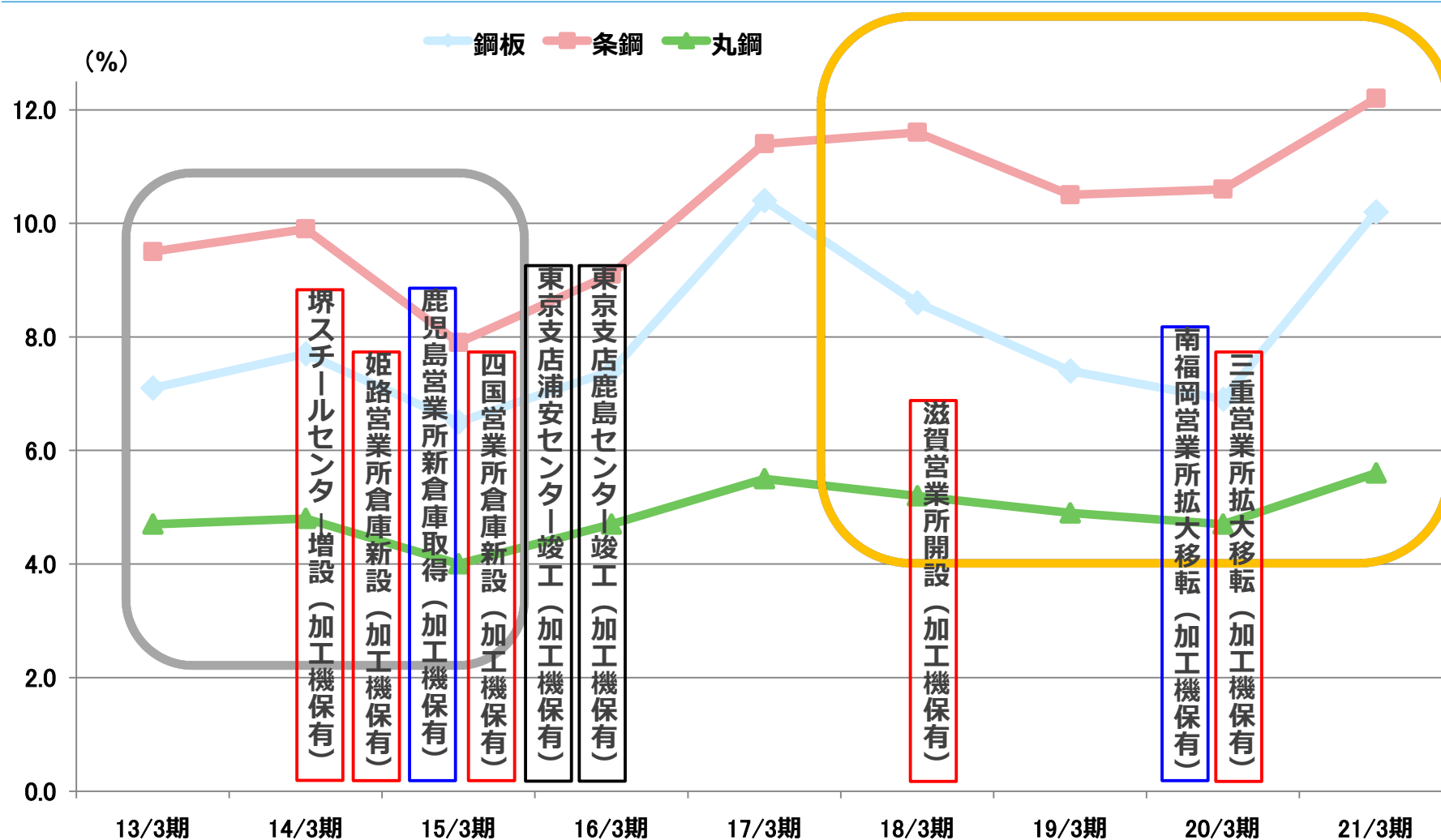
		19/3期 実績		20/3期 実績		21/3期 実績		前年同期比 増減率	22/3期 通期計画		前期比 増減率
鉄鋼商品販売事業	鋼板類売上	56,467		54,131		43,859		△ 19.0 %	48,487		+ 10.6 %
	販売数量・単価	656	86.08	651	83.15	564	77.76	△ 13.4 %	564	85.97	+ 0.0 %
	売上総利益	4,164		3,752		4,467		+ 19.1 %	4,883		+ 9.3 %
	利益率	7.4		6.9		10.2		+ 3.3 P	10.1		△ 0.1 P
	条鋼類売上	78,521		74,437		61,704		△ 17.1 %	62,746		+ 1.7 %
	販売数量・単価	765	102.64	711	104.69	644	95.81	△ 9.4 %	631	99.44	△ 2.0 %
	売上総利益	8,275		7,923		7,531		△ 4.9 %	7,385		△ 1.9 %
	利益率	10.5		10.6		12.2		+ 1.6 P	11.8		△ 0.4 P
	丸鋼類売上	29,096		28,805		22,557		△ 21.7 %	26,877		+ 19.2 %
	販売数量・単価	395	73.66	389	74.05	322	70.05	△ 17.2 %	361	74.45	+ 12.1 %
	売上総利益	1,414		1,358		1,272		△ 6.3 %	1,438		+ 13.1 %
	利益率	4.9		4.7		5.6		+ 0.9 P	5.4		△ 0.2 P
小計	売上高	164,084		157,373		128,120		△ 18.6 %	138,110		+ 7.8 %
	販売数量・単価	1,816	90.35	1,751	89.88	1,530	83.74	△ 12.6 %	1,556	88.76	+ 1.7 %
	売上総利益	13,853		13,033		13,270		+ 1.8 %	13,706		+ 3.3 %
	利益率	8.4		8.3		10.4		+ 2.1 P	9.9		△ 0.5 P

- ◆鋼板類について 販売単価の低下、販売数量の減少により売上高は減少しているものの、下期においては在庫出荷分の利益率向上により、売上総利益は増加
今期から本格的に鋼板加工も開始し、今後も順次加工設備を導入予定
- ◆条鋼類について 需要の低迷による販売数量の減少、並びに販売単価の低下により売上高、売上総利益ともに減少
ただし、鋼板同様に下期は在庫出荷分の利益率向上により売上総利益は増加傾向
今後も加工品の比率を高め売上総利益の増加を目指す
↳ 自社一次加工比率は条鋼類全体の販売数量の約10%
外注も合わせると約20%
- ◆丸鋼類について 販売数量の減少並びに販売単価の低下により売上高、売上総利益ともに減少
- ◆在庫数量について 下半期から市況は強含みで推移しており、需要の回復とともに在庫数量を徐々に積み増し
今後は需要の大幅な回復は見込みにくい為、横ばいで推移

自社での一次加工重量の推移



品種別利益率推移



一次加工比率の向上により条鋼類の収益率が向上しかつ安定化
21/3期は下半期からの市況の上昇により利益率は改善

品種別販売状況（小野建単体）

(百万円)

		19/3期 実績	20/3期 実績	21/3期 実績	前年同期比 増減率	22/3期 通期計画	前期比 増減率
販売事業 建材商品	建設機材商品売上	15,210	15,769	14,876	△ 5.7 %	15,188	+ 2.1 %
	売上総利益	744	738	676	△ 8.4 %	758	+ 12.1 %
	利益率	4.9	4.7	4.5	△ 0.2 P	5.0	+ 0.5 P
工事事業 工事請負	建設機材工事売上	38,286	40,669	44,241	+ 8.8 %	34,731	△ 21.5 %
	売上総利益	2,771	3,199	3,270	+ 2.2 %	2,868	△ 12.3 %
	利益率	7.2	7.9	7.4	△ 0.5 P	8.2	+ 0.8 P
不動産事業 等賃貸	その他事業収入	734	730	696	△ 4.7 %	644	△ 7.5 %
	売上総利益	462	479	458	△ 4.4 %	416	△ 9.2 %
合計	売上高	218,317	214,547	187,932	△ 12.4%	188,677	+ 0.4 %
	売上総利益	17,830	17,449	17,674	+ 1.3 %	17,748	+ 0.4 %

22/3期は、新会計基準の変更に伴い、工事使用分材料（条鋼類・鋼板類）の利益が加算される為工事請負事業の収益率は向上

- ◆**建材商品販売事業について** 公共工事向け土木商品販売が想定通り推移している
今後も災害復旧工事をはじめ、公共事業は順調に推移
する見込み
- ◆**工事請負事業について** 継続分の大型案件は順調に推移しているものの、
中小型案件の需要は減少気味となり、受注競争が激化して
おり、受注量ならびに収益率は低下傾向
今後は、物流施設、大型店舗等の物件計画は進んでおり
下半期以降受注活動が活発化する見込み

●当社の取り組み

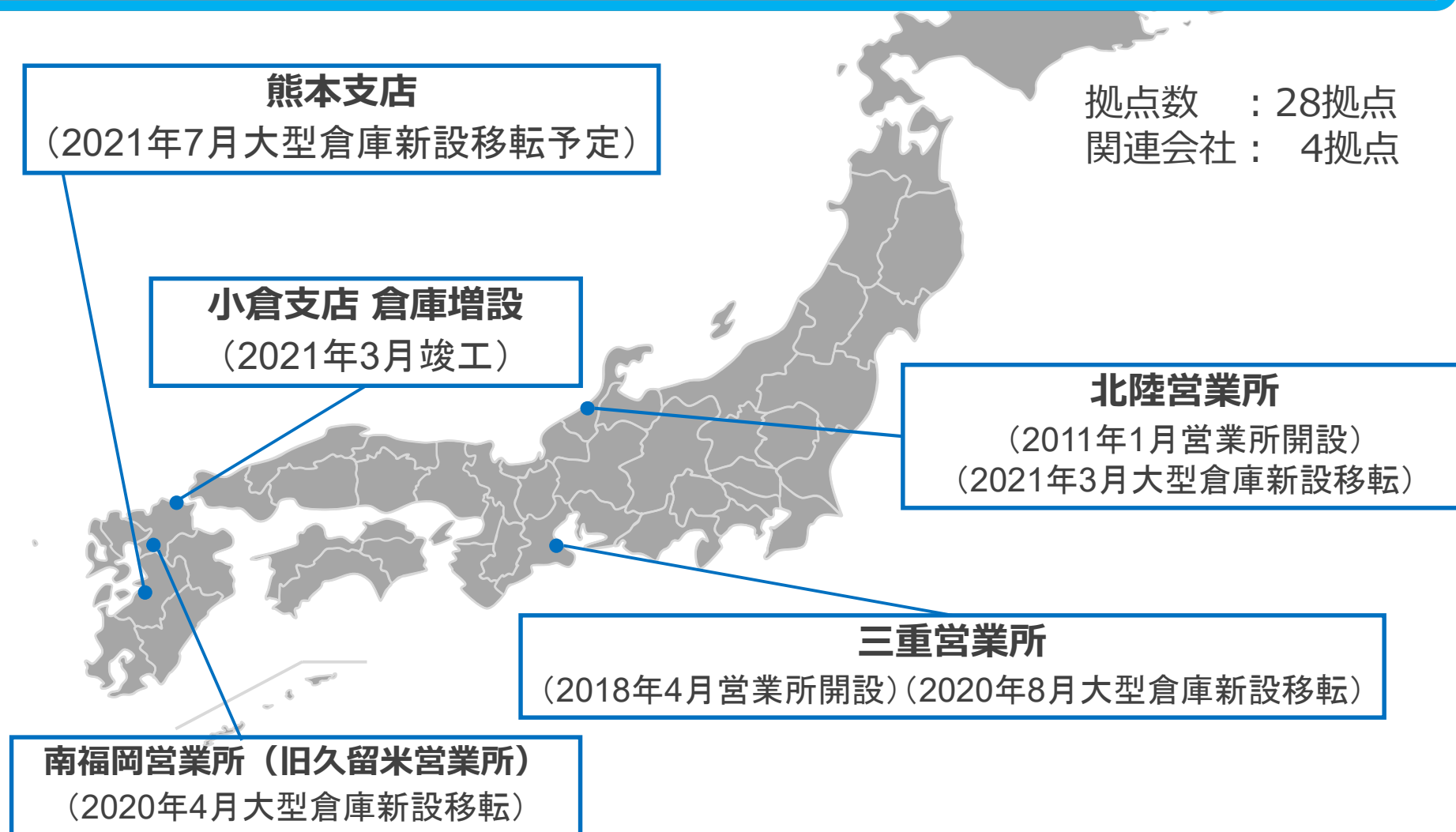
- ・ 物流拠点の新增設の推進
- ・ 取引先のニーズ多様化に対応し
素材販売→一次加工品（切断・穴あけなど）販売強化
在庫品種ならびに新增設を含め加工設備を拡充
- ・ 鋼板加工分野にも着手
- ・ 福岡、大阪、東京（浦安・川崎）などの中心的物流センターを活用し
周辺地域の物流センターの展開によるジャストインタイムでの納入体制を強化
- ・ 小口ならびに加工品の対応の為、自前でのトラック便の拡充

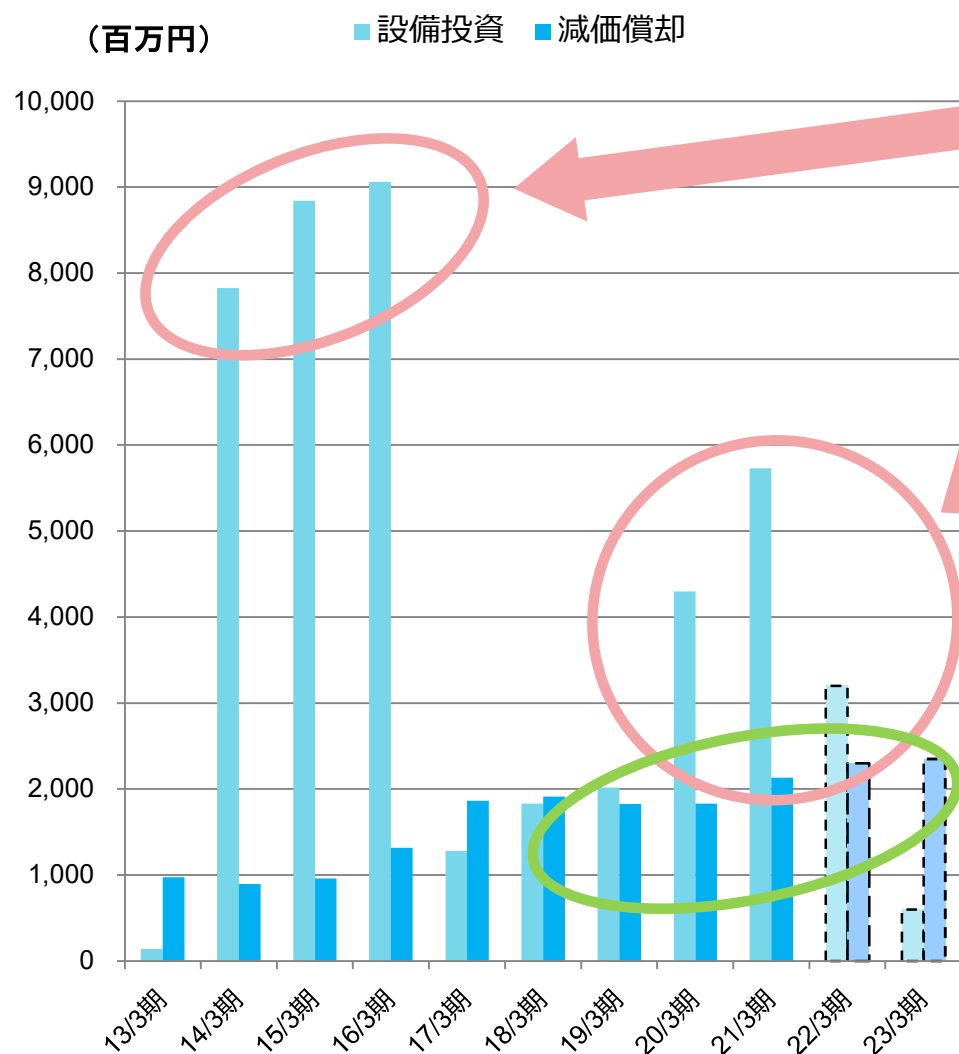
●工事請負事業について

- ・ 専門工事技術者及び施工監理技術者の養成強化（現在社員保有資格数99）
- ・ 販売先でもある鉄骨加工業者とネットワークを作り、鉄骨工事請負の拡大
- ・ その他工事請負業務の拡大

直近開設済み拠点並びに今後開設予定の物流センター

中長期的に各地域に根差し、地域と共に発展する全国ネットワーク企業を目指す





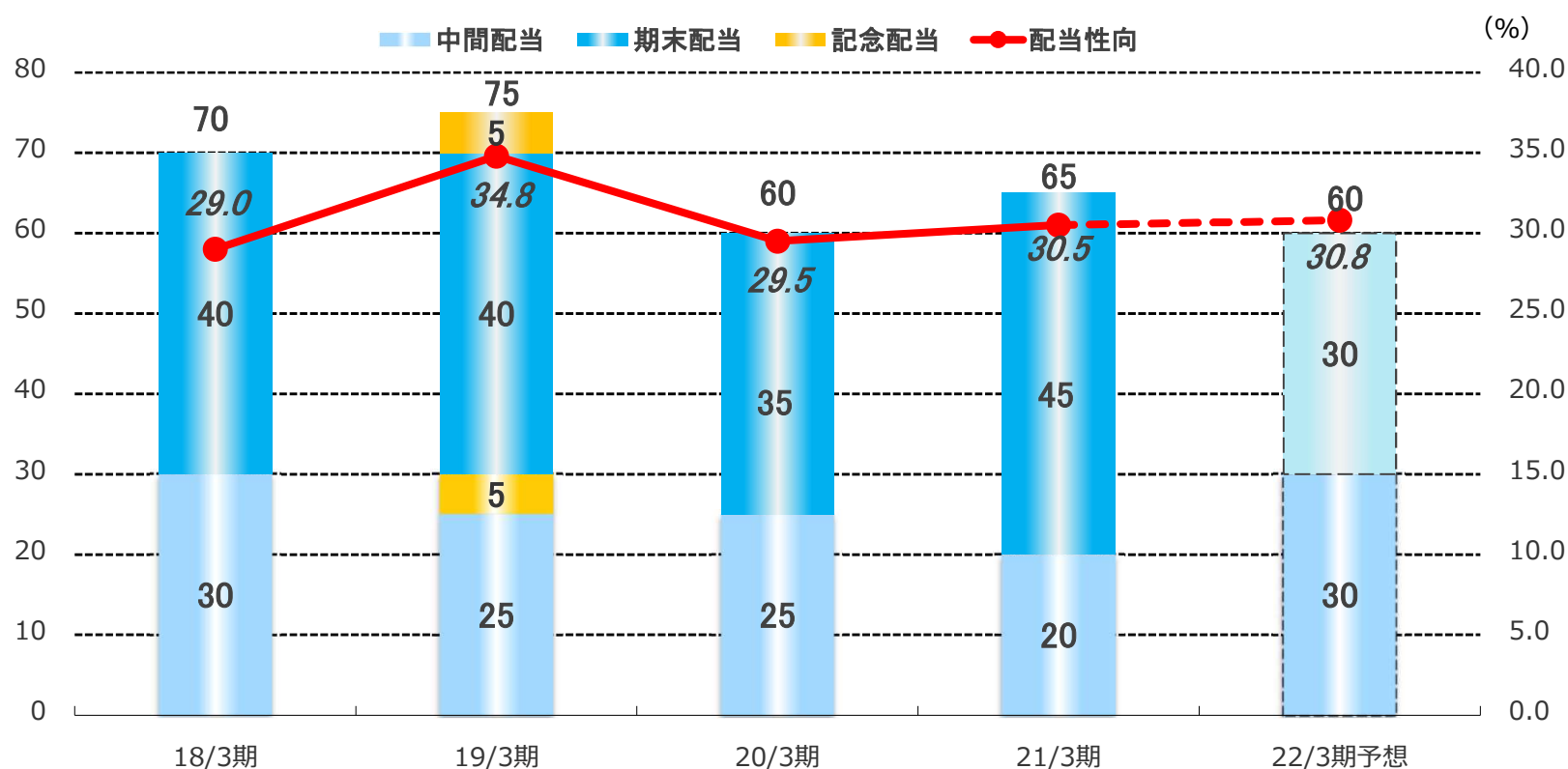
・ 今後10年を見据えて3年間で約260億円の設備投資を実施

・ 16/3期で一段落したものの近年加工設備拡充のための拠点の新增設など設備投資金額が増加傾向

・ 減価償却費は若干増加傾向となる予定

加工設備の充実による
安定的な収益向上

業績連動ながら連結配当性向30%を基本に安定かつ 高い水準の利益還元を継続



◆環境

- ・ コロナ禍での経済活動は徐々に回復しており、需要の下落傾向は収まりつつある
ただし、今後もコロナの影響は予断を許さない
- ・ 中国の景気回復並びにスクラップ等の原材料価格の高騰により、メーカー主導で鉄鋼市況は需要が盛り上がらない中で、年度前半は上昇局面となる見込み

◆業績予想前提

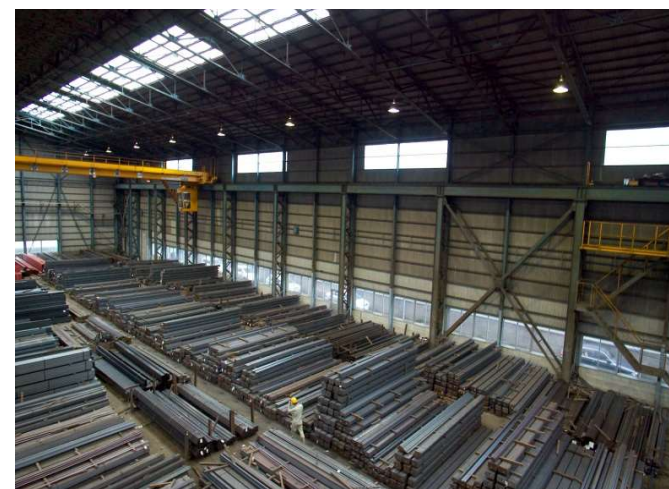
- ・ 需要の回復はにぶく鉄鋼商品販売数量は伸び悩む
- ・ 鉄鋼市況が前期後半から強含みで推移しており、在庫単価も上昇してくることから利益率は低下傾向となる
- ・ 工事請負事業の売上高は新会計基準の適用に伴い完成工事基準から進行基準に変更
需要面においては、継続中の大型案件は順調に推移しているものの、
足元の中・小型案件は低調に推移



商号	小野建株式会社
設立	1949年8月
代表者	小野 建
資本金	42億9,980万円
連結売上高	2,028億2,500万円
従業員	796 人(連結)
上場取引所	東京①・福岡(7414)
本社	福岡県北九州市
業種	鉄鋼・建材流通商社
主な事業内容	鋼材の販売・加工 土木建築材料の販売 土木建築工事の請負



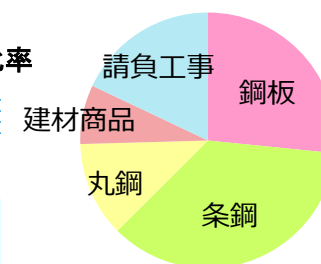
小野建株式会社本社 小倉支店



小倉支店 倉庫内
(2020年9月30日現在)

取扱品種

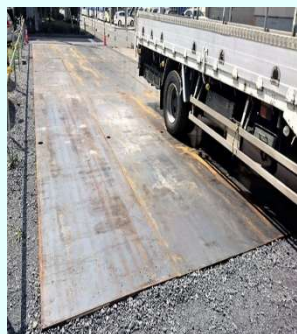
売上比率



鉄鋼商品

鋼板

鉄を板状にしたもの
工事現場の敷板等に使われる



条鋼

型鋼とも呼ばれ、色々な形に
成形したもの
建物の骨組等に使われる



丸鋼

鉄を丸い棒状にしたもの
建物の基礎等に使われる



建材商品

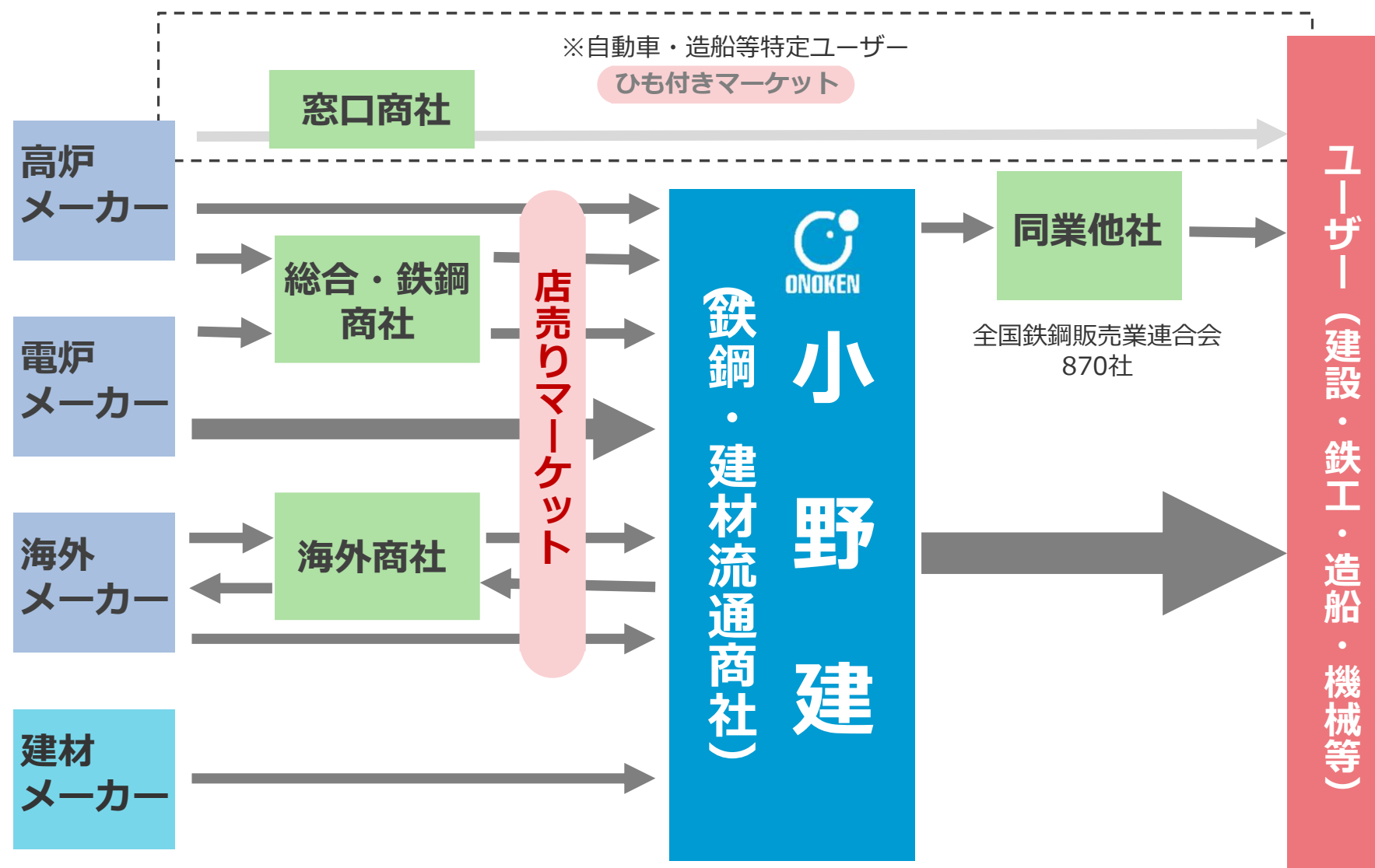
土木・建築工事に
使用される材料
鋼矢板・屋根・
フェンス・サッシ
等
写真はフェンス、
鋼矢板



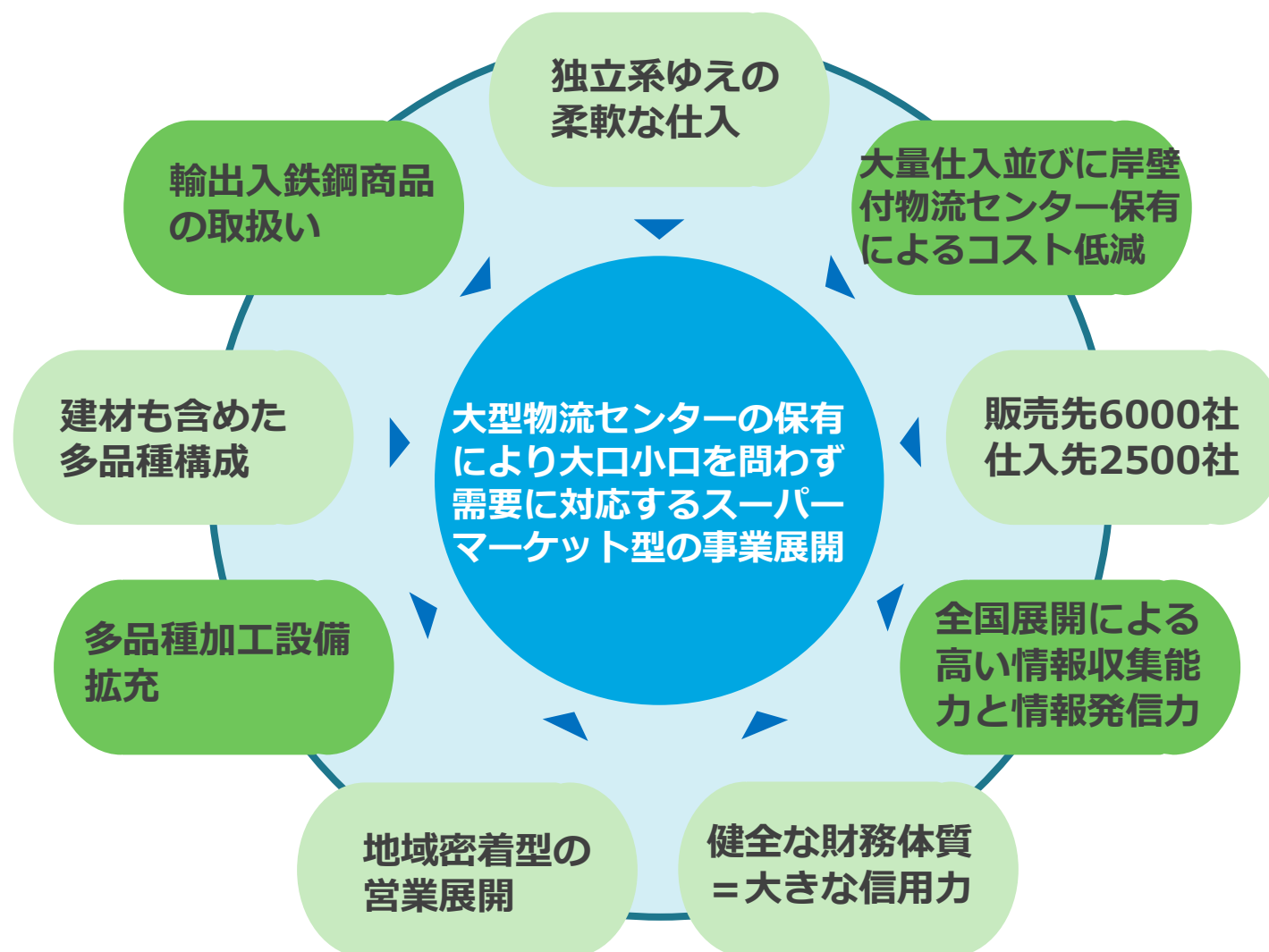
工事請負

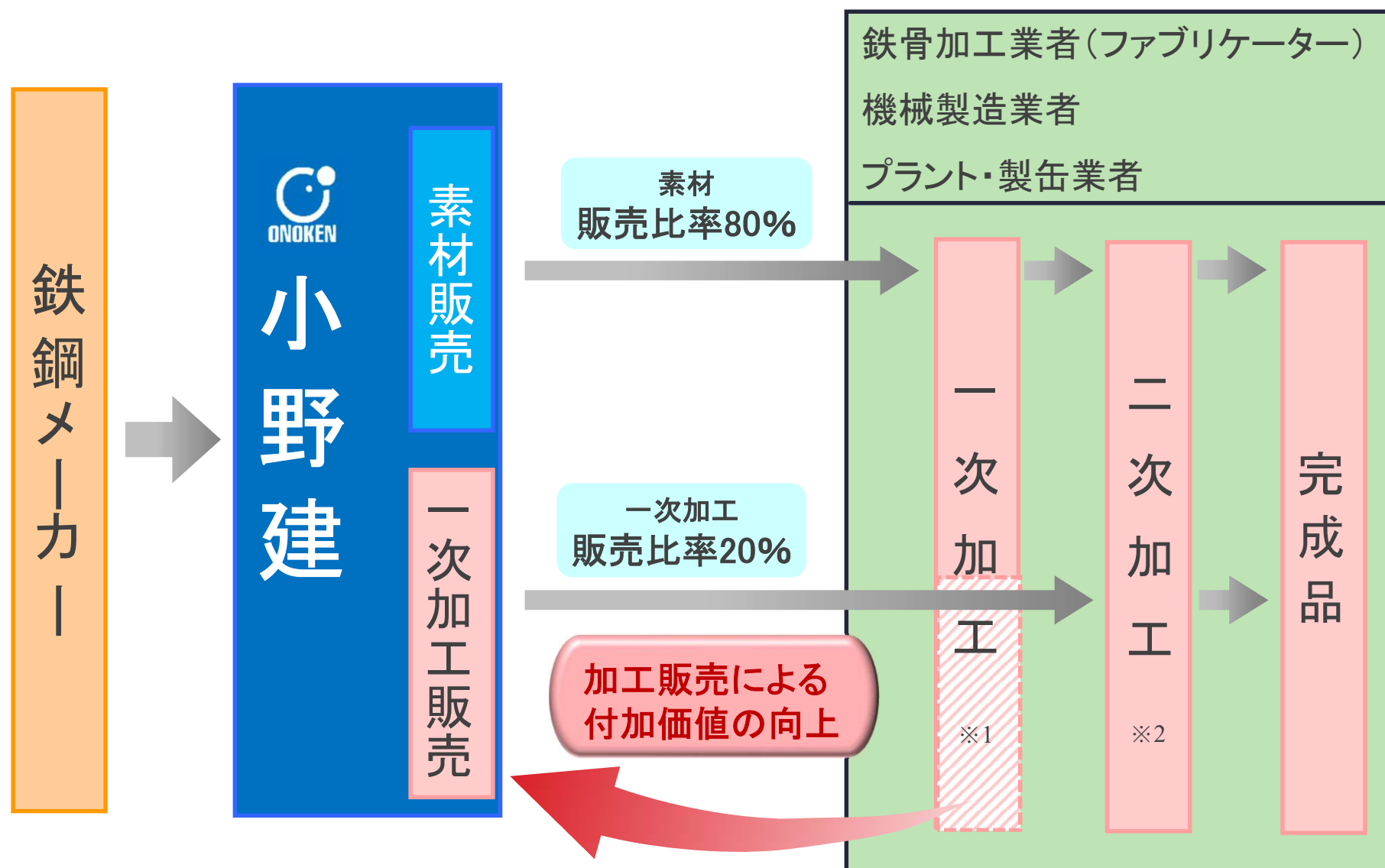
鉄骨工事
屋根工事
外壁工事
サッシ工事
杭工事 など





物流センターを活用した「鉄と建材のスーパーマーケット」





※1一次加工・・・素材を販売ニーズに合わせ、切断・穴あけ等の加工

※2二次加工・・・一次加工品に組立・溶接・塗装等の加工

付加価値向上により鉄鋼市況の影響を受けにくい商品の取扱拡大

加工前のH形鋼

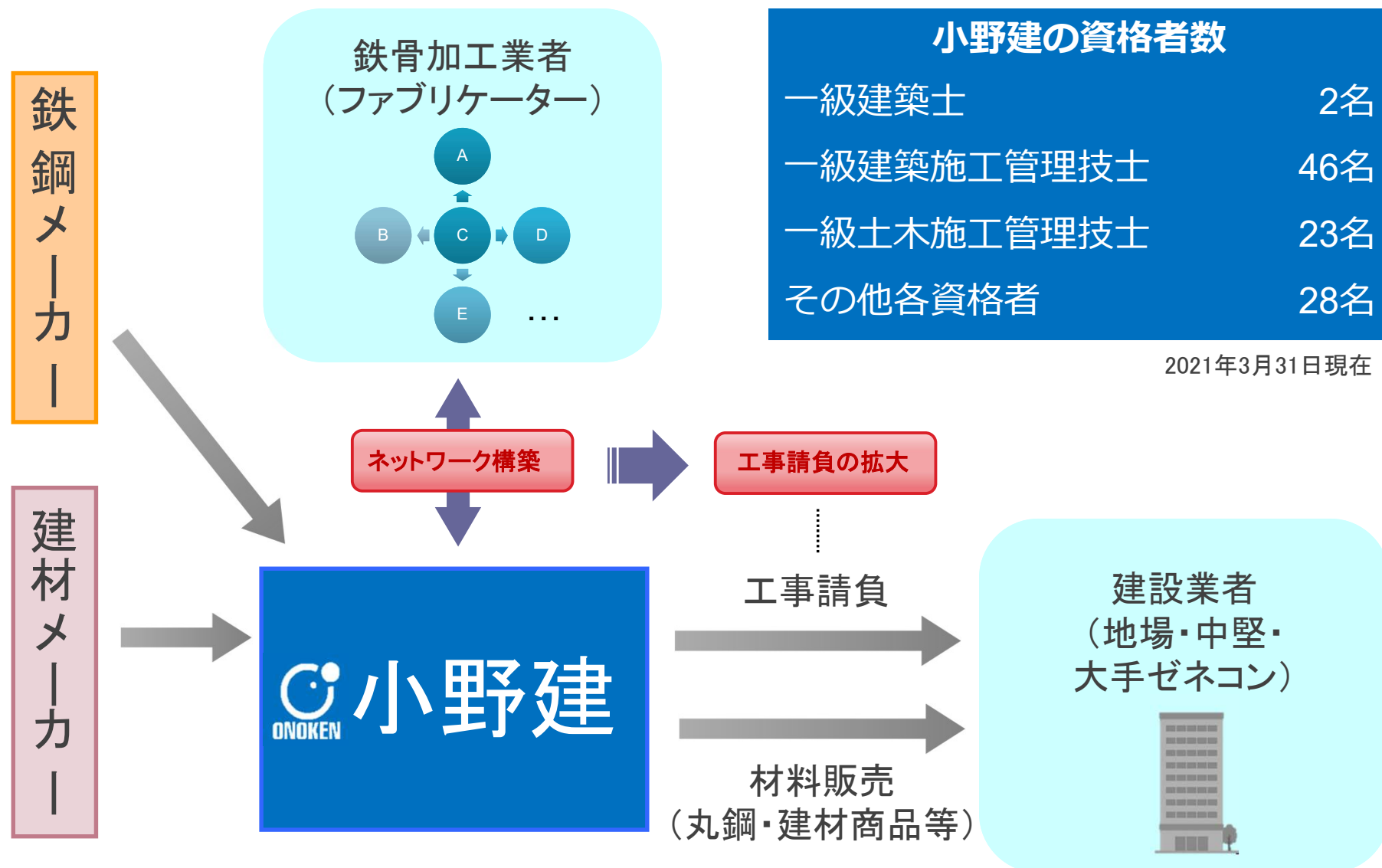


加工機にて
切断・穴あけ



加工後の
(切断・穴あけ後)
完成品

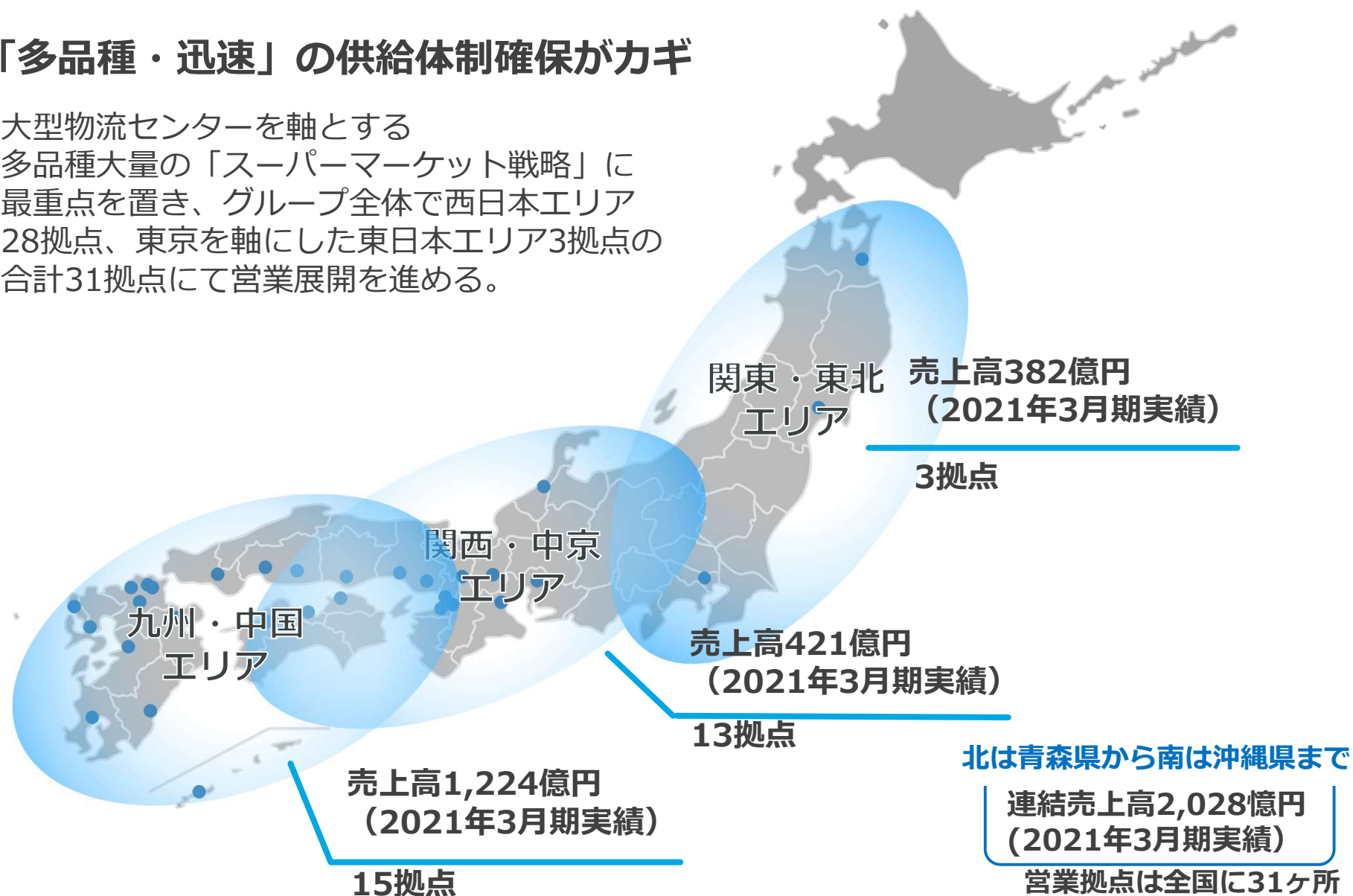


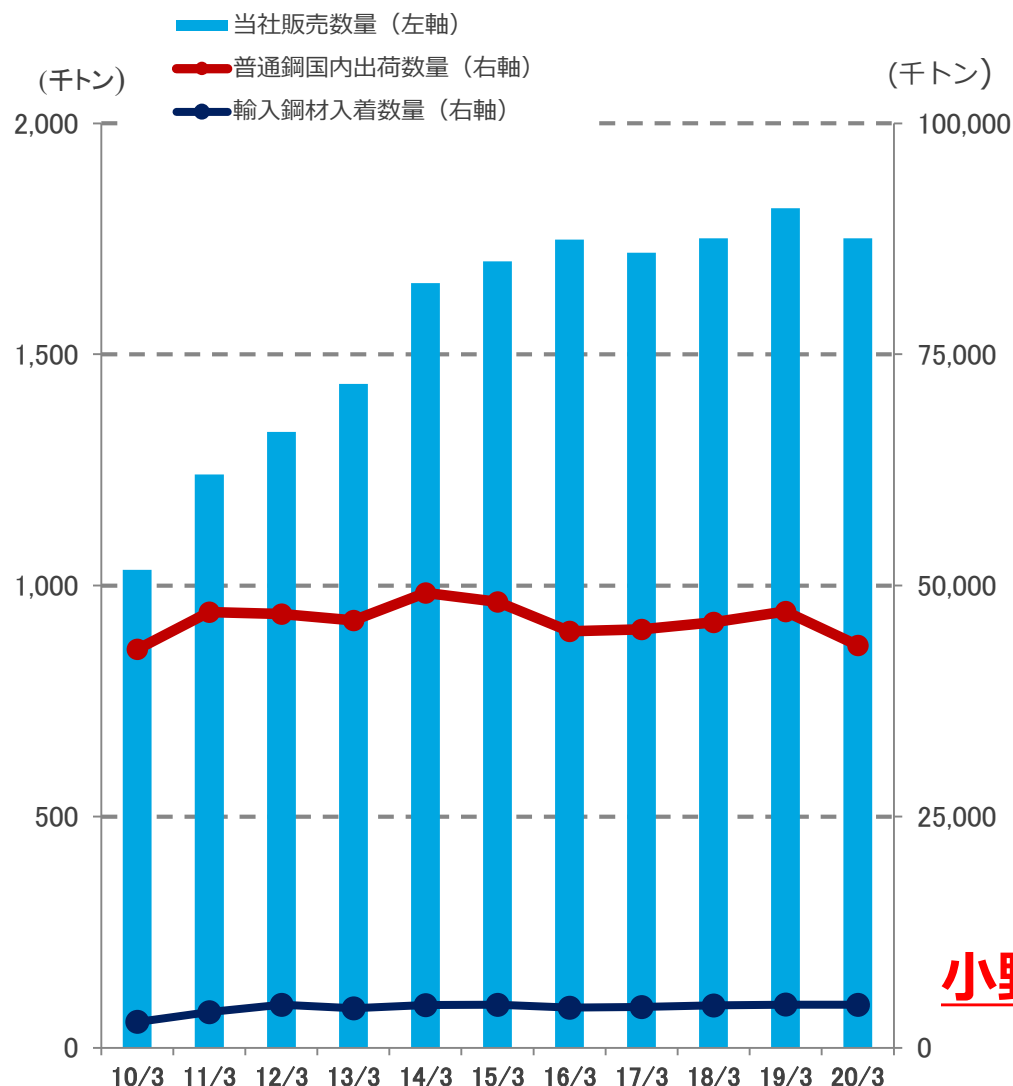


全国にネットワークを展開

「多品種・迅速」の供給体制確保がカギ

大型物流センターを軸とする
多品種大量の「スーパーマーケット戦略」に
最重点を置き、グループ全体で西日本エリア
28拠点、東京を軸にした東日本エリア3拠点の
合計31拠点にて営業展開を進める。





※日本鉄鋼連盟資料より当社作成

市場との比較

- 普通鋼国内出荷数量は、近年横ばいの傾向にある中、当社の販売数量は順調に増加
- 全国と同業者約700社の中でトップシェアながら現在3%程度
今後もエリアを拡大し、販売数量を伸ばす

今後人口減少等により市場は縮小していくことが予想されるが、

小野建の強みを活かして勝ち残りへ

● 付加価値の向上の為、加工設備の拡充と物流センター新增設の促進

- 物流センターの新增設により加工設備ならびに在庫の拡充をはかり、ユーザーニーズに即応する体制作りを目指す
- 加工商品販売に注力し、今後販売比率を高め、他社との差別化と収益率アップを目指す
- 付加価値を高め市況の変動に左右されにくい、安定した収益体制を目指す

● 工事請負の拡大

- 鉄骨加工業者とのネットワーク構築の推進
- 施工管理者の育成強化
- 技術集団(職人等)の育成強化
- 工事請負工種の拡大



同業他社との差別化と収益向上を目指す



- 営業車のエコカー導入、倉庫の屋根にソーラーパネル設置によるCO₂排出量の削減



- 納品書電子化による紙の使用量削減

- 産休、育休、時短勤務等の利用によるワークライフバランスの充実



- 年1回の安全大会開催
- 社内相談窓口設置

- コンプライアンスマニュアルの策定
- 社内通報窓口設置